

I 「自己発揮できる子どもの育成」に向けた授業改善・学級経営

① 子どもとつくる授業(教え込み→学び合いへ)

② 良さを認めあえる学級集団(自分の居場所がある学級・学校)

☆自己発揮の土台作りから子ども同士が学んでいる授業☆キラリ☆>

◇校長が参観させてもらっている日々の何気ない授業から(自己発揮に関わって)

<3年算数 個別支援から自己発揮へ 長さの問題>



個別指導する人を決めておいて、1時間のうちに複数回素早く支援に回っている

基本的な方法(kmをmに直してから距離の計算をする)をみんなで確認してから、自分で問題を考えて自分で答えていく。その後は活用段階…自分で問題を作る時間(みんな集中して取り組んでいる様子が見られた。子ども達は創作的な活動は大好きである。/問題づくりの授業では条件をあらかじめ示しておくこと、のちに友達にも解いてもらうとうれしくなる。)自己発揮している姿…立ち上がって発言、先生に間違いを教えてくれた児童、わかると自己発揮したくなる。

<4年算数 教えている自己発揮 それを受け入れている姿 やるべきことが明確な時>



わからないところを近くの児童へ男女関係なく教えている姿は、自己発揮して「教えたい伝えたい!」という気持ちが行動に出た自己発揮につながる。

(自分の居場所や友だちの居場所)

所が学級の中にあり信頼関係があることが前提となっている)

<2年体育 体づくり 準備運動>



・一人一風船で「87 88 89・・・」と数えながら落とさないように運動している姿は、みんな意欲的に自己発揮している姿でした。時にはひざを曲げてしゃがみ、時には上を見てジャンプ!時には風船を追いかけてダッシュ!とて

も体づくり運動として自己発揮したくなる題材ですね。